

2021年度 LCA国際小学校 学校自己評価

学校教育目標	重点目標（中・長期目標）	総合評価					
◆社会の一員として個性を生かして、社会に貢献できる人間の育成 ◆世界を舞台に活躍できる人間の育成 ◆生きることの素晴らしさを知った人間の育成	信頼できる学校づくり(教育の質・保護者などへの連絡の正確さ)、子どもの英語教育センターとしての機能の充実(教材・プログラム・人材)	今年度も新型コロナウイルス感染症への感染予防対策にともない、依然として多くの行事の中止や縮小を余儀なくされた。その中でもICTを駆使して行事の開催の方法を工夫したり、地域連携においても市教委と連携し、新たなかたちを模索してきた。学習活動における制約も多い中ではあったが、子どもたちの学びの機会の保障とその質を維持するために、教員研修の充実とカリキュラムの刷新などに力を入れてきた。特に、今年度は英語教育の更なる充実に向けてカリキュラムの刷新、ICTを活用してのハイブリッド授業などを実現することができた。また、学校評価アンケートの結果において、児童の9割以上が「学校が楽しい」と答え、保護者の9割以上が「子どもが楽しく学校に通えている」との回答を得たことは、本校の掲げる教育目標を達成するための手ごたえを感じている。					
	今年度の重点目標	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
	教師個々人のICT活用能力をアップし、時代に合わせた臨機応変な教育活動に対応できるようにする。	毎月定期的にGoogleの研修を設けるなどして、Google認定教育者の資格取得の推進を図った。今年度小学校で7名の教師が資格を取得した。また、Sports Day等の行事の配信を本年は学校の教職員スタッフのみで行ったり、コロナ感染予防のために登校を控えることを希望する児童のために一部を除くほぼすべての教科でのオンライン配信を行った。	○				オンライン配信授業における評価の仕方については引き続き実践を重ねる中で向上策を検討していく必要がある。
英語カリキュラムの大幅な刷新を行い、児童の英語力アップを促進する。	英語カリキュラムを大幅に刷新した。LOOKという教科書を導入し、新カリキュラムにおける教科書活用について、より実践的でバランスの取れた指導ができるよう教員研修にも取り組んだ。		○			教員研修については来年度以降も継続的に実施し、新カリキュラムの活用に向けてのサポートをしていく必要がある。	

領域	対象	目 標	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教 育 活 動	教育課程	特例校としての特色を生かしたカリキュラムの刷新と、新カリキュラムに則った英語教育のさらなる充実。	全学年の英語カリキュラムが刷新できたか。新カリキュラム実施にともなう教員研修を実施できたか。	全学年の英語カリキュラムの刷新をすることができた。また合わせて教員研修も進めているところである。教員研修については個に即したかたちで各教員のよさを生かしながら継続的に行う必要がある。		○			年間で教員の研修計画を立てて、計画的に研修を進めていく。教員がカリキュラムに即して効果的な授業ができるスキルを上げていく。
	教科指導	新型コロナウイルス感染症予防で登校を控えることを希望する児童と、学校にいる児童とに同時に授業が行えるよう、ハイブリッドな環境での授業展開を行う。今年度は基本的にすべての授業のライブ配信を行う。	家にいる子にも授業の内容を伝え、指導することができたか。授業のライブ配信を行うことができたか。	基本的にすべての教科でのライブ配信を行うことができた。授業のライブ配信やMetaMoji、ロイノートのアプリを使用するなどして学校にいる子どもたちと同じ内容の指導をすることができた科目がある。しかし、一部教科ではそれが難しく、実技教科については依然として課題が残る。		○		教員研修をさらに充実させ、より多くの教科で教員がデジタル機器を駆使して授業を展開する力を伸ばしていく。	
	児童支援・指	児童支援を専門とする外部機関との連携を強化し、児童支援の拡充を図る。	外部機関と学校が密に連携を取り合いながら、支援が必要な児童の実態をきめ細かく把握し、一人一人に合わせた支援ができたか。	週1回の定期的なミーティングをもち、それぞれの言語での算数の指導状況について情報をシェアして進めることができた。1・2年のカリキュラムについては、得られた情報をもとに一部修正をして進めた。来年度は3年生のカリキュラムについても同様にバージョンアップを図る予定である。		○			1年から3年までの算数は英語での指導を中心に進めているので、その定着度や算数的な内容のフォローなどを日本語で継続的にしていく必要がある。今後も定期的なミーティングを重ねながら子どもたちの実態に合わせて柔軟にカリキュラムの内容や指導法を変えていく必要がある。
	地域との連	新型コロナウイルス感染症予防で様々な連携が難しい状況ではあるが、地域の人や市内の学校とのつながりをもてるような行事やイベントを実施する。	地域の人や市内の学校とのつながりをもてるような行事やイベントを実施できたか。	相模原市立北の丘センターの1階展示コーナーで行われた、相模原市の3つの小学校が芸術作品を出展する「文化の風を感じよう～小学校3校 合同作品展～」に、他校と合同で出展した。		○			今年は4年生のみの参加であったが、今後もこのような市内学校との連携の機会を生かしていきたい。
学校運営	研修	外部講師や校内の有資格者による、ICTの活用の仕方についての実践的な研修を行う。初任者に対する研修を複数体制で行い、実践的なアドバイスをしていく。	教員のICT活用能力を高める研修を行うことができたか。初任者研修を複数体制で計画に進められたか。	Google Workspace for EducationやMetaMoji、ロイノートといったアプリの使い方に関する研修を計画的に行うことができた。初任者研修については毎月項目を決めて講義をしたり、指導教官による授業参観を計画的に実施することができた。		○			ICT活用研修は引き続き継続していく。初任者研修については、単元計画の作成についてなど今年度の反省をいかし、さらに充実したものにしていく。